

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(202 .12)令和 年度:

文献検討

,

透析看護における感染症予防対策に関する文献検討

学生氏名 片石麻椰 坂井陽菜乃
(指導：及川賢輔)

緒言

血液透析導入患者について、米国のデータでは、透析患者は一般の患者に比べ、感染症による死亡率は 19.8 倍に上昇すると報告されている¹⁾。日本透析医学会の 2020 年刊行物「わが国の慢性透析療法の現況 (2020 年 12 月 31 日現在)」によると、血液透析導入患者の死因の 21.5% が感染症であり、心不全に次いで 2 番目に多い死因となっている²⁾。さらに、透析療法導入後 1 年以内の患者でみると、感染症は死亡原因のうちの 26.3% を占めており、最も多い死因である²⁾。

このように、もともと感染症に対して脆弱な透析患者は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) においても致死率が高く、本邦の全致死率が 0.2% であるにもかかわらず、透析患者に限った致死率は 5.07% と報告されている^{3) 4)}。

これに対し日本透析医学会は、「新型コロナウイルス感染症に対する透析施設での対応について (第 5 報)」を公開し、透析施設においては、より強い COVID-19 対策が必要であると啓発を行っている⁵⁾。

そこで本研究では、看護師が行う感染予防行動に着目して、透析看護における有効な感染症予防対策を文献的に検討した。

方法

【調査方法】検索式を「血液透析」and「感染症予防」and「看護」、絞り込み条件を「原著論文」として、医学中央雑誌 web を用いて検索したところ、49 件の文献がヒットし、そのうち看護師が行う感染予防対策について記載されている文献 8 件を研究対象とした。(対象文献参照)

【データ分析方法】各文献で述べられている血液透析導入患者における感染予防対策を抽出し、内容を要約、コード化し、類似性に沿ってカテゴリー化した。なお、文献の整理、内容の抽出には著者の意図する内容を読み込み、記述内容の意味を変えないように、2 名の研究者で確認しながら行った。

【倫理的配慮】先行して行われた研究を引用・参照した場合には、引用・参照した文献の出典を可能な限り明示した。

結果

8 件の対象文献から 59 コード、13 サブカテゴリ (以下 〈 〉 で示す)、計 3 カテゴリ (以下 【 】 で示す) を抽出した。カテゴリとサブカテゴリを表 1 に示す。

1. 【看護スタッフの感染予防に対する意識の向上・知識の充実を図る】ために、〈感染予防行動の現状調査〉を行い、〈感染予防の現状調査の結果をフィードバック〉することが行われていた。また正しい感染予防に対する知識を獲得するために、〈感染予防マニュアル、委員会の整備〉に基づいた〈感染予防の技術確認〉や、認定看護師による〈勉強会、講習会の実施〉が行われていた。さら

に正しい感染予防対策を継続して行うために、〈感染予防法の掲示による促し〉も行われていた。

表 1 透析看護における感染症予防対策

| カテゴリ | サブカテゴリ (コード数) |
|-------------------------------|---|
| 看護スタッフの感染予防に対する意識の向上・知識の充実を図る | 感染予防マニュアル、委員会の整備 (4) 勉強会、講習会の実施 (5) 感染予防の現状調査の結果をフィードバック (3) 感染予防の技術確認 (3) 感染予防法の掲示による促し (6) 感染予防行動の現状調査 (7) |
| 感染症の持ち込み・感染拡大の予防 | 感染患者の隔離 (4) 患者および患者家族への指導 (9) 感染者と接触の可能性があるスタッフの隔離 (2) |
| 看護スタッフによる感染予防対策の実施 | 感染予防行動の実施 (6) 消毒の実施 (3) 環境整備 (5) 抗体の獲得 (2) |

2. 一般的に透析施設はベッドや送迎バスを共有している環境である。施設内で感染者が出た場合は【感染症の持ち込み・感染拡大の予防】のため、〈患者の隔離〉や〈感染者と接触の可能性があるスタッフの隔離〉が行われていた。また〈患者および患者家族への指導〉においては、看護スタッフが、患者のみならず患者家族にも、感染症に関する知識を提供していた。

3. 【看護スタッフによる感染予防対策の実施】では、ワクチン接種による〈抗体の獲得〉を前提として、処置前後の手指衛生や流水による手洗いなどの〈感染予防行動の実施〉を行っていることがわかった。〈消毒の実施〉では次亜塩素酸を使用するなどといったそのウイルスに応じた消毒方法を用いることも必要であり、換気やリネン類の交換、アルコール製剤の設置などの〈環境整備〉を行うことで、病室内を清潔に保ち、手指衛生をしやすい環境に調整していた。

考察

1. 看護スタッフの感染予防に対する意識の向上・知識の充実を図る

感染症マニュアルや委員会の整備に基づいた調査、技術確認を行うことで看護スタッフ一人一人の意識を向上することができると考えられる。特に専門的な知識を持った認定看護師による講習会によって、感染症リスクの高い患者への感染予防行動に対する知識を充実させることができる。また日常的に目に入る掲示物によって感染予防行動を促すことで、適切な感染予防対策を継続することができると考えられる。

2. 感染症の持ち込み・感染拡大の予防

感染症の成立には、感染源、感染経路、感受性宿主の 3 つの要素が必要であるため、透析患者が

感染源と接触することがないように、患者・スタッフの感染者を隔離し、感染経路を遮断することが必要である。外来透析患者にとっては、透析施設のみならず、自宅を含む施設外のコミュニティーも感染源、感染経路になる。そのため、患者のみならずその家族に対しても知識の提供を行い、適切な感染対策を実施してもらうことが重要で、患者とその家族に接する機会の多い看護師の情報提供における役割は大きい。

3. 看護スタッフによる感染予防対策の実施
看護スタッフは患者との接触が多く、感染症に罹患する可能性が高い。よって、看護師自身が感染症を運び、拡大する要因となる可能性がある。そのため、看護スタッフ自身の感染予防対策は非常に重要である。

また、環境整備においては、換気やリネンの交換によって患者の療養環境を清潔に保つことも、感染リスク軽減につながる。またアルコール製剤を設置することで、感染予防行動をとりやすい環境にすることができる。直接的な感染予防行動だけでなく、環境整備も、感染予防において重要である。

透析患者は、透析治療のため週2~3回、1回につき4~5時間の時間的拘束を受けている⁷⁾。多くの患者が同一フロアで長時間の治療を行うこと、透析室以外での共有スペース（更衣室、待合室、送迎車など）⁸⁾を利用することから、複数の患者が定期的に閉鎖空間にいる状態が多くみられる。透析施設はこのような感染リスクの高い患者が密集する環境であるため、標準予防策に基づいた感染症予防対策をより厳密に行う必要があると考えられる。

また、近年流行が続いているCOVID-19は、感染力の高い変異株の出現もあり、感染リスクの高い透析患者にとって脅威となっている。主な感染経路は飛沫感染・接触感染であり、マスクの着用や手指衛生の徹底など、他の感染症と同様に一般的な感染予防対策を行うことが重要となる。他の感染症と比べて2次感染が非常に多いことが報告されており、無症状の状態でも感染性があるため、患者やその家族、医療従事者のすべてが感染している可能性を踏まえた行動が必要である。特に、看護師は他の職種から比べると、患者に直に接し、ケアをしなければならぬ役割を担っている⁹⁾ため、感染予防マニュアルや委員会の整備などによる統一した感染予防対策を継続して行っていくことが重要である。

対象文献

- 1) 當摩 紘也(国保中央病院 透析室), 牧村 あゆみ(2022): 維持透析患者の感染予防に対する意識向上に向けた患者参加型指導の実践, 病院安全教育, 9(5), 56-58.
- 2) 宮崎 沙弥香(衆和会長崎腎病院), 白井 美千代, 丸山 祐子(2020): 透析患者ケア時における看護職の手指衛生の認識と行動変容に向けた取り組み, 長崎県看護学会誌, 16(1), 9-15.
- 3) 梶田広明(防衛医科大学校高等看護学院), 高見澤一徳, 大嶋浩司郎, 石関香織, 辻明(2014): ビデオ撮影を用いた透析室スタッ

フの感染予防行動調査と課題改善に向けた指導の試み, INFECTION CONTROL, 23(2), 191-196.

- 4) 滝井 京子(高松市民病院), 磯野 裕之, 片山 裕佳子(2013): 透析医療従事者への手指衛生指導の取り組み, 香川県看護学会誌, 4, 55-56.
- 5) 渡辺 みどり(長野県立須坂病院 血液浄化療法部), 玉木 幸子, 山岸 麻美, 青木 茂美, 村越 千恵子, 宮坂 一, 武内 秀子, 喜多 幸代, 吉澤 誠, 林 久美子, 新貝 滋子, 小林 衛, 斉藤 博(2007): 当院における HIV 感染透析患者の感染対策の実際 初の受け入れを経験して, 長野県透析研究会誌, 30(1), 36-39.
- 6) 佐藤 直之(厚木クリニック 看護部), 山本 スミ子, 兵藤 透, 若井 陽希, 平良 隆保, 日台 英雄, 酒井 糾(2008): インフルエンザ予防のための透析室における N95 マスクの使用(第2報), 善仁会研究年報, 29, 92-95.
- 7) 小坂 愛(健栄会三康病院), 吉田 あゆみ, 磯川 薫, 柴田 由紀, 武田 裕治, 山本 員久, 小野 秀太, 寺西 順哉, 松田 拓久, 井上 徹(2007): 透析施設におけるノロウイルス感染性胃腸炎の感染防止対策について 当院の集団発生(29名)を振り返って, 大阪透析研究会会誌, 25(2), 175-180.
- 8) 佐藤 寛美(総合病院国保旭中央病院 人工透析センター), 長嶋 洋子, 貝根 瑠依, 大川 あさ子, 常世田 明美, 大塚 玲子(2005): 当センターにおける手指衛生方法について考える, 旭中央病院医報, 27(1), 55-58.

引用・参考文献

- 1) 矢内充(2012): 透析医療における感染対策, 日大医学雑誌, 71(4): 240-247.
- 2) 日本透析医学会(2022-11-13): わが国の慢性透析療法の実況(2020年12月31日現在), <https://docs.jsdt.or.jp/overview/file/2020/pdf/02.pdf>
- 3) 新型コロナウイルス対策合同委員会(2022-11-13): 透析患者における累積の新型コロナウイルス感染症の登録数, https://jsn.or.jp/medic/data/COVID-19number-of-infected_20221111.pdf
- 4) 厚生労働省(2022-11-13): 新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について(令和4年11月13日版), https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29169.html
- 5) 日本透析医学会(2022-11-13): 新型コロナウイルス感染症に対する透析施設での対応について(第5報), http://www.touseki-ikai.or.jp/htm/03_info/doc/20201008_action_for_covid19_v5.pdf
- 6) 菊地勘(2018): なぜなにがサクッとわかる! 新人スタッフのための血液透析患者の体のふしぎ Q&A40 病態生理編 合併症にまつわる Q&A 透析患者が感染症にかかりやすいのはどうして, 24(5), 440-441.
- 7) 菊地勘(2020): 透析患者における新型コロナウイルス感染症の現況と透析施設における感染対策, 26(11), 1048-1053.
- 8) 山元万里子, 青木久恵(2022): 血液透析と就労の両立における諸問題に関する文献検討, 看護と口腔医療, 5(1), 11-17.
- 9) 水附裕子, 大坪みはる(2007): 透析看護 QUESTION BOX1 専門技術とリスク・感染管理, 第1版, 118-119, 中山書店
- 10) 日本腎臓学会(2022-11-14): 新型コロナウイルス患者数増加にともなう透析施設における対応と透析患者の透析医療の確保についてのお願い, https://jsn.or.jp/medic/data/COVID-19_20220111.pdf